

マレーシア語のヴォイスとその周辺*

野元 裕樹

1. はじめに

本稿では、マレーシア語のヴォイス（態）とそれに関連する表現について概観する。大まかに言って、ヴォイスとは動詞の表す状況に関わる参与者の名詞句が形態統語的にどのように実現されるかに関わる現象である。「どのように」という部分は、義務性（項、付加詞）、文法関係／統語的位置（主語、目的語；語順）、格（これはマレーシア語の場合には無視して構わない）などの側面からである。例えば、能動態では動作主（より厳密に言えば、動詞の外項）が主語となり、受動態では同じ名詞句が主語でなくなる、といった具合にである。このように、ヴォイスは同じ意味役割を担う名詞句の振舞いに関わるので、2つの態を比較しながら、その対応関係を記述するのが分かりやすい。よって、本稿でも多くの場合、そのような方法で記述を行うが、文法の規則として、一方の態から他方の態への変換規則のようなものを想定する必要はない。

本稿の構成は以下の通りである。まず、第2節ではヴォイスの中でも最も馴染みの深い、能動態と受動態について記述する。能動態は、いわゆる通常のヴォイスで、動詞の外項（動作主、経験者など）が主語として実現される。一方、受動態では能動態の目的語が主語となり、能動態の主語は主語でなくなる。次に、第3節では、ある状況（＝使役事象）が別の状況（＝結果）を引き起こすという内部構造を持つような複雑事象において、使役事象に関与する使役者が主節の主語として実現される、いわゆる使役文について論じる。マレーシア語の使役文の1つとして、動詞に接尾辞-kanが付加する形態的使役文がある。この接尾辞には他に、受益を表す機能もある。受益の-kanを伴う動詞は、単一目的語（monotransitive）文に加え、単一目的語文の付加詞を第一目的語とする二重目的語（ditransitive）文も可能である。このように、付加詞が動詞の目的語になるような態を適用（applicative）態といい、第4節はこれについて論じる。第5節では、自らに向けられる行為を表す構文を扱う。ここで論じられるのは、中動態、中間構文、再帰表現、相互表現である。最後に、第6節は全体のまとめである。調査項目のうち第2-5章で取り上げられなかったものは、ここで挙げる。

本稿で示すデータは、マレーシア国内の地域方言の差を超えて使われる、マレーシア語の標準方言のものである。標準方言においては、書き言葉と話し言葉があり、2つの変種

* 本稿の執筆にあたり、Muhammad Idham Adli bin Musa, Muhammad Firdhaus bin Abu Mansor, Faridah Mohamed の3氏にコンサルタントとしてご協力いただいた。Kartini Abd. Wahab 氏との議論もデータの分析にあたって大いに役立った。ここに感謝の意を記したい。

の間の差は大きく、ダイグロッシア状況を生んでいる。本稿のデータは基本的に書き言葉のものであるが、話し言葉についても必要に応じて言及することがある¹。例文は原則としてコンサルタントへの聞き取り調査によって得られたデータをそのまま掲載する。そのため、一部、話し言葉的な語彙が混じっていることもある。特集における調査項目の番号は、マレーシア語の例文の日本語訳の後に【 】に入れて示してある。

2. 受動文：主語→非主語

ここでいう受動文とは、対応する能動文における主語名詞句が（主節の）主語以外で現れる構文を言うものとする。マレーシア語の能動文、受動文は、動詞に態を表す（有形の）形態素があるかどうかにより、それぞれ2つのタイプに分けられる。能動態の標識 *meN*-²のある能動文が「形態的能動文 (morphological active)」(1a)で、ない能動文が「裸能動態 (bare active)」(1b)である。

- (1) a. Mereka sudah mem-baca laporan itu.³ (形態的能動文)
3PL PERF ACT-read report that
「彼らはその報告書をもう読んだ。」
- b. Mereka sudah baca laporan itu. (裸能動文)
3PL PERF read report that
「彼らはその報告書をもう読んだ。」

2種類の能動文に対応し、受動文にも「形態的受動文 (morphological passive)」(2a)と「裸受動文 (bare passive)」(2b)の2つのタイプが存在する⁴。形態的受動文では動詞に受動態の接頭辞 *di*-が付くのに対し、裸受動文では態を表す（有形の）形態素が現れない。

¹ ヴォイスの面での2つの変種の違いについては、Nomoto and Shoho (2007)を参照されたい。

² N で表される鼻音要素は、語幹の最初の音に応じて変化する。なお、語幹が p, t, s, k で始まる場合、これらの音は脱落する。本稿では、これらの脱落する無声阻害音を[]に入れて表記することにする。

³ Leipzig Glossing Rule にない略号：ACT: active; ADVS: adversity; PART: particle; PERF: perfect.

⁴ 2つの受動態には、他にもさまざまな名称が存在する（その一覧はNomoto (2006)を参照）。例えば、形態的受動態は「規範的受動態 (canonical passive)」, 「真の受動態 (pasif jati)」, 「第一受動態 (Passive Type 1; P1)」, 裸受動態は「擬似受動態 (pasif semu)」, 「第二受動態 (Passive Type 2; P2)」, 「目的語前置構文 (Object Preposing Construction)」などと呼ばれることがある。Arka and Manning (1998)などは、形態的受動態のみを受動態とし、裸受動態を「目的格態 (Objective Voice)」と呼び、能格構文であると分析している。本稿で用いる名称が動詞の形態的特徴に着目したものであるのに対し、他の名称は各構文の受動態らしさや、特定の統語分析に基づいたものであると言える。

- (2) a. Laporan itu sudah di-baca (oleh mereka). (形態的受動文)
 report that PERF PASS-read by 3PL
 「その報告書はもう（彼らによって）読まれた。」
- b. Laporan itu sudah *(mereka) baca. (裸受動文)
 report that PERF 3PL read
 「その報告書はもう彼らが読んだ。」

2 つの受動文は、動詞の形態に加え、対応する能動文における主語名詞句の受動文中での位置付けにおいても異なる。当該の名詞句は上の例では *mereka* 「彼ら」だが、形態的受動文では付加詞となり、その生起が随意的であるに対し、裸受動文では（主節の）主語ではないものの、動詞の直前に留まる義務的要素となり⁵、しばしば動詞の前接語（proclitic）となる。

偶発・自発的行為を表す *ter*-動詞文では、態を表す（有形の）形態素が現れない。(3a) が能動文、(3b) が受動文である。

- (3) a. Saya ter-pecah-kan gelas itu.
 1SG TER-break-CAUS glass that
 「《うっかり落として》私はそのコップを割ってしまった。」【13b】
- b. Gelas itu ter-pecah oleh tetamu.⁶
 glass that TER-break by guest
 「そのコップはお客さんに割られてしまった。」

⁵ 動詞句内主語仮説を採用する分析では、当該の名詞句が *vP* の指定部に留まり、能動文で起こる *TP* の指定部への移動が起こらない、ということである。本稿で「主語」というときには、*vP* の指定部は含まず、*TP* の指定部のみを指すことにする。

⁶ 自発・偶発的行為を表す *ter*-動詞文は、受動態では使役の接尾辞-*kan* が生起できなくなる。ただ、(i)に示したように、このような制限は、完結のアスペクトを表す *ter*-動詞文には見られないので、*ter*-動詞文では態を表す有形の形態素が生起しない、という一般化には影響を与えない。なお、(i-a)のような能動文を認めない話者もいる。

- (i) a. %Abu belum ter-selesai-kan lagi masalah itu.
 Abu not.yet COMPL-solved-CAUS yet problem that
 「アブはまだその問題を解決できていない。」
- b. Masalah itu belum ter-selesai-kan lagi oleh Abu.
 problem that not.yet COMPL-solved-CAUS yet by Abu
 「その問題はまだアブによって解決されていない。」

(3a)に対し、意図的に割る行為を表す能動文では、接頭辞 meN-が用いられる。

(4) Saya mem-[p]ecah-kan telur.

1SG ACT-break-CAUS glass

「《玉子焼きを作るために》私は卵を割った。」【13a】

これに関連し、Soh and Nomoto (2011)では meN-は非対格動詞には現れないことを指摘している。また、meN-は状態文中にも生起しない (Soh and Nomoto 2009)。このような meN-の分布に対する制約を、Soh and Nomoto (2011, 査読中)では、meN-は Landman (1992, 2008)の言うところの段階 (stage) を持った事象を外延とする動詞句を選択するためである、と分析している。この分析によれば、meN-が生起する形態的能動文と meN-が生起しない裸能動文では、その表す意味に違いが生じることになる。具体的には、前者が時間的に幅を持った事象を描写するのに対し、後者はそれに加え、瞬間的な事象をも描写し得るという違いである。その違いが最もはっきりと出るのが、下の(5)のような例である。解釈(i)は「喧嘩に伴う声や音を聞く」という解釈で、これはある程度の時間的幅を持つのが普通である。よって、接頭辞 meN-を含む形態的能動文(5a)を用いることができる。それに対し、解釈(ii)は「喧嘩の発生に関する知らせを聞く」という解釈で、瞬間的事象でしかあり得ない。よって、形態的能動文では表現できない。裸能動文(5b)の方は、どちらの解釈にも使える⁷。

(5) a. Saya men-dengar mereka ber-gaduh.

1SG ACT-hear 3PL MID-fight

(i) 「私は彼らが喧嘩するのを聞いた。」

(ii) *「私は彼らが喧嘩したと聞いた。」

⁷ 2つの解釈では、統語構造も異なる。解釈(ii)は、下の(i)の文同様、dengar「聞く」は叙実節のCPを補部取る。

(i) Saya tahu [CP (bahawa) [TP dia akan datang hari ini]].

1SG know that 3SG will come today

「私は彼が今日来ることを知っている。」【18b】

解釈(i)の場合、下の(ii)のように進行相の助動詞 sedang が生起できるので、dengar はTPを補部としていることになる。

(ii) Saya (men-)dengar [TP mereka sedang ber-gaduh].

1SG ACT-hear 3PL PROG MID-fight

「私は彼らが喧嘩しているのを聞いた。」

- b. Saya dengar mereka ber-gaduh.

1SG hear 3PL MID-fight

(i) 「私は彼らが喧嘩するのを聞いた。」

(ii) 「私は彼らが喧嘩したと聞いた。」

これよりは分かりにくいですが、「見る」の場合にも、形態的能動文と裸能動文の間に微妙なニュアンスの違いがある。コンサルタントによれば、meN-のある形態的能動文(6a)の方がしっくり、きちんと見ているのだという。この違いも、meN-が持つ、事象の段階に関する制約によるものと考えられる。meN-が存在することにより、「見る」という行為が、動きを一コマ一コマ追って見続けるという、段階を持った事象であることが、meN-がない場合よりも際立つのだろう。

- (6) a. Saya me-lihat dia datang.

1SG ACT-look 3SG come

「私は彼がやって来るのを見た。」【18a】

- b. Saya lihat dia datang.

1SG look 3SG come

「私は彼がやって来るのを見た。」【18a】

3. 使役文：使役者を新たな主語として投入

使役文では、非使役文の表す事象を引き起こす参与者が、新たに主語として加わる。マレーシア語の使役文には、動詞に使役の接尾辞-kan を付加する形態的使役文と、一連の使役動詞を用いた迂言的使役文の2種類が存在する。前者は対応する非使役文が非対格動詞文または形容詞述語文の場合のみに可能である (Vamarasi 1999)。また、-kan 動詞形が語彙的に存在しない場合もある。後者はそのような制限がなく、生産性が高い。

3.1. 形態的使役文

(7)–(10)の(b)の例文が形態的使役文の例である。動詞には接尾辞-kan が付き、対応する非使役文(a)の主語は目的語になる。一部の動詞は、接尾辞-kan なしでも使役の意味を表す。例えば、(8b)の mem-buka 「開ける」がその例である。なお、(a)の非使役文の動詞には能動態の標識である meN-が付いていないのは、一般に非対格動詞には meN-が現れないためである (Soh and Nomoto 2011)。(9a)の turun に meN-を付加し、men-[t]urun とすることもできるが、その場合、文全体は非能格文となる。(10a)には本来ならば、語根の diri のみが動詞として用いられるような文を挙げるのが望ましいが、そのような用法はないので、一般に自動詞文で生起する接頭辞 ber-の付いた動詞を含む文を挙げてある。

- (7) a. Pintu rusak.
door broke(n)
「ドアが壊れた／壊れている。」
- b. Dia me-rosak-kan pintu.
3SG ACT-broken-CAUS door
「彼がドアを壊した。」
- (8) a. Pintu dah buka.
door PERF open
「ドアが開いた／開いている。」【1a】
- b. Dia mem-buka(-kan) pintu.
3SG ACT-open-CAUS door
「彼がドアを開けた。」【1b】
- (9) a. Harga minyak telah turun.
price oil PERF fall
「ガソリンの価格が下がった。」
- b. Kerajaan telah men-[t]urun-kan harga minyak.
government PERF ACT-fall-CAUS price oil
「政府はガソリンの価格を下げた。」
- (10) a. Adik ber-diri di atas meja.
younger.sibling BER-stand at top desk
「弟が机の上に立っている。」
- b. Saya men-diri-kan adik di atas meja.
1SG ACT-stand-CAUS younger.sibling at top desk
「私は弟を机の上に立たせた。」【2】

自動詞であっても非能格の場合は、形態的使役文を作ることができない。

- (11) a. Adik me-nyanyi.
younger.sibling ACT-sing
「弟は歌っている。」

- b. *Saya me-nyanyi-kan adik.
 1SG ACT-sing-CAUS younger.sibling
 (「私は弟に歌わせた」の意で)

me-nyanyi-kan という動詞形は存在するが、「歌わせる」という使役動詞ではなく、「～を歌う」という他動詞となる。この場合の-kan は、それが付加した形式が他動詞であることを明示する役割を果たし、-kan なしでも同じ意味を表すことができる。

- (12) Adik me-nyanyi(-kan) lagu.
 younger.sibling ACT-sing-TR song
 「弟は歌を歌っている。」

非能格動詞文や他動詞文をもとに使役文を作りたい場合は、次節の迂言的使役文を用いることになる⁸。

3.2. 迂言的使役文

迂言的使役文は、一連の使役動詞が使役事象により引き起こされる結果の事象を表す文を埋め込む形となる。各使役動詞は、それが表す使役者と被使役者との関係において異なる。まず、最も一般的なのが英語の make に相当する mem-buat(-kan)「～させる」である。

(13)は、上の(12)の文の使役文である。

- (13) Saya mem-buat(-kan) adik me-nyanyi lagu.
 1SG ACT-make-TR younger.sibling ACT-sing song
 「私は弟に歌を歌わせた。」【3】

⁸ インドネシア語には他動詞文に基づいた以下のような使役文が存在する (cf. Kroeger 2007)。この構文では、被使役者は到着点を表す前置詞 pada, ke の目的語として生起する。

- (i) a. Saya men-cuci-kan pakaian pada wanita itu.
 1SG ACT-wash-CAUS clothes to woman that
 「私はその女性に服を洗ってもらった。」 (Sneddon 1996: 75)
 b. Saya men-jahit-kan baju ke tailor.
 1SG ACT-sew-CAUS clothes to tailor
 「私はテーラーに服を仕立ててもらった。」 (Kaswanti Purwo 1995)

この種の使役文はマレーシア語には見られない。

- (14) Wayang itu mem-buat orang me-nangis.
 film that ACT-make person ACT-cry
 「その映画は人を泣かせる。」
 (=「その映画は泣ける (その映画をみると泣いてしまう.)」【12】)

使役者が被使役者の意思に反して、強制的にある行為を行わせる場合には, meny-[s]uruh
 「命じる」, mem-[p]aksa 「強いる」などが用いられる。

- (15) Emak meny-[s]uruh/ mem-[p]aksa anak (untuk) pergi mem-beli roti.
 mum ACT-order ACT-force child to go ACT-buy bread
 「《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かせた。」【4a】

逆に、使役者が被使役者の希望を汲み取り、ある行為の実行を許可する場合には、
 mem-benar-kan 「許可する」や、口語では「与える」の意味を持つ bagi (文語形：beri) が
 「させてやる」という意味で用いられる⁹。

- (16) Emak mem-benar-kan/bagi anak (untuk) keluar ber-main.
 mum ACT-allow-TR let child to go.out BER-play
 「《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かせた。」【4b】

4. 適用文：付加詞→目的語

適用文とは、前置詞の目的語として表現される、付加詞の名詞句が、動詞の目的語になるような構文のことを言う。マレーシア語の適用文には、動詞に接尾辞-kan が付くものと、接尾辞-i が付くものの2種類が存在する。

4.1. -kan 適用文

動詞に接尾辞-kan が付くタイプの適用文は、受益の意味を表し、受益者の存在を意味的に含意する (Cole and Son 2004)。受益の-kan 動詞は、(17a)のように受益者が付加詞として前置詞句で表される文にも、それに対応する適用文である(17b)にも生起する。

⁹ この動詞の「与える」という意味での例文を以下に挙げておく。

- (i) Saya bagi/ mem-beri adik saya buku itu.
 1SG give ACT-give younger.sibling 1SG book that
 「私は弟にその本をあげた」【6】

- (17) a. Saya mem-[p]akai-kan baju untuk adik.
 1SG ACT-wear-BEN clothes for younger.sibling
 「私は弟に服を着せ（てあげ）た。」【5a】
- b. Saya mem-[p]akai-kan adik baju.
 1SG ACT-wear-BEN younger.sibling clothes
 「私は弟に服を着せ（てあげ）た。」【5a】

-kan 受益動詞を用いた上の文では、行為者が受益者のために直接手を下して「着せる」ことを含意する。言語による命令などにより、行為者自身は直接手を下さず「着させる」という意味は、(18)のように迂言的使役文（3.2 節参照）を用いて表される。

- (18) Saya mem-buat-kan/ meny-[s]uruh adik mem-[p]akai baju itu.
 1SG ACT-make-TR ACT-order younger.sibling ACT-wear clothes that
 「私は弟にその服を着させた。」【5b】

(17)に対応する非受益文は(19)である。(19)の-kan の付かない動詞形 mem-[p]akai は「着る」、(17)の mem-[p]akai-kan は「着せる」の意味である。そのため、(17)の mem-[p]akai-kan の-kan は使役の-kan（3.1 節参照）ではないか、と思われるかもしれない。

- (19) Adik mem-[p]akai baju.
 younger.sibling ACT-wear clothes
 「弟は服を着た。」

しかし、前節で述べたように、マレーシア語では一般に他動詞文をもとにして形態的使役文を作ることはできない。(17)の mem-[p]akai-kan が「着てあげる」ではなく「着せてあげる」の意味になるのは、-kan 動詞を用いた受益文では、いずれの統語パターンであっても、受益者（adik「弟」）が目的語（baju「服」）を何らかの形で所有する関係が成り立たねばならない（Son and Cole 2008）、という意味上の制限があるためである。前節で、me-nyanyi-kan を用いた(11b)の文は、「歌わせる」という意味の使役文にはならないことを見たが、同じ文は「歌ってあげる」という意味の受益文としてならば可能である。

- (20) Saya me-nyanyi-kan adik lagu.
 1SG ACT-sing-KAN younger.sibling song
 (i) *「私は弟に歌を歌わせた。」（使役）
 (ii) 「私は弟に歌を歌ってあげた。」（受益）

この場合にも、私が歌う歌を弟が何らかの形で所有することになる、と理解できる。所有関係が成立し難い場合には、-kan 受益文の容認度は下がる。(21a)は、母が切り分けたお菓子が私のものになることが容易に理解されるため、完全に容認可能である。一方、(21b)は、母が切った髪と私との間に所有関係を見い出すのは難しい。そのために、容認度が下がる¹⁰。

- (21) a. Emak mem-[p]otong-kan saya kuih.
 mum ACT-cut-BEN 1SG cake
 「お母さんは私にお菓子を切ってくれた。」
- b. ?Emak mem-[p]otong-kan saya rambut.
 mum ACT-cut-BEN 1SG hair
 「お母さんは私に髪を切ってくれた。」
 (=「私は母に髪の毛を切ってもらった。」【7c】)

すでに明らかであろうが、日本語のやりもらい表現は、-kan 受益文を用いて表現される。(22e)は、(22d)に対応する受動文である。

- (22) a. Saya mem-baca-kan buku untuk adik.
 1SG ACT-read-BEN book for younger.sibling
 「私は弟に本を読んであげた。」【7a】
- b. Saya mem-baca-kan adik buku.
 1SG ACT-read-BEN younger.sibling book
 「私は弟に本を読んであげた。」【7a】
- c. Abang mem-baca-kan buku untuk saya.
 elder.brother ACT-read-BEN book for 1SG
 「兄は私に本を読んでくれた。」【7b】

¹⁰ (21b)の日本語訳が不自然なのも同じ理由からだろう。マレーシア語でも日本語でも「誰の髪？」と尋ねたくなる。括弧内の日本語のマレーシア語訳としては、次のように「お母さんは私の髪を切った」と書くのが普通である。

- (i) Emak mem-[p]otong rambut saya.
 mum ACT-cut hair 1SG
 「お母さんは私の髪を切った。」

- d. Abang mem-baca-kan saya buku.
 elder.brother ACT-read-BEN 1SG book
 「兄は私に本を読んでくれた。」【7b】
- e. Saya di-baca-kan buku oleh abang.
 1SG PASS-read-BEN book by elder.brother
 「私は兄に本を読んでもらった。」

4.2. -i 適用文

接尾辞-i の付く動詞による適用文では、(空間的および抽象的) 到着点を表す付加詞が動詞の目的語となる。

- (23) a. Aminah meng-[k]irim se-pucuk surat kepada ibu-nya di kampung.
 Aminah ACT-send one-CLF letter to mother-3SG at village
 「アミナは田舎の母に一通の手紙を送った。」
- b. Aminah meng-[k]irim-i ibu-nya di kampung se-pucuk surat.
 Aminah ACT-send-APPL mother-3SG at village one-CLF letter
 「アミナは田舎の母に手紙を送った。」

接尾辞-i は、終結点を持たない状態 (stative) 動詞文を終結点を持つ事象 (eventive) 動詞文に変える (Soh and Nomoto 2009). 例えば、一般に状態文は命令文にできないが (Dowty 1979: 55), (25)に示したように, (24)の2文のうち命令文にできるのは、動詞に接尾辞-i の付いた(24b)の方だけである。

- (24) a. Dia tidak suka (pada) orang yang suka me-mungkir-i janji.
 3SG not like on person REL like ACT-break-TR promise
 「彼は約束をよく破る人が好きではありません。」
- b. Dia tidak meny-[s]uka-i orang yang suka me-mungkir-i janji.
 3SG not ACT-like-APPL person REL like ACT-break-TR promise
 「彼は約束をよく破る人が好きではありません。」
- (25) a. *Jangan-lah suka orang yang suka me-mungkir-i janji!
 don't-PART like person REL like ACT-break-TR promise
- b. Jangan-lah meny-[s]uka-i orang yang suka me-mungkir-i janji!
 don't-PART ACT-like-APPL person REL like ACT-break-TR promise
 「約束をよく破る人を好きになってはいけません。」

5. 自らに向けられる行為を表す構文

5.1. 中動態, 中間構文

接頭辞 ber-には, 行為の対象が主語自身に向けられることを示す, 中動 (middle) 用法が存在する.

- (26) Saya sudah ber-cukur.
1SG PERF MID-shave
「私はもう (自分のひげ／頭を) 剃った.」
- (27) a. Tukang gunting ber-cukur janggut.
barber MID-shave beard
「理髪師は (自分の／*客の) ひげを剃った.」
b. Tukang gunting men-cukur janggut.
barber ACT-shave beard
「理髪師は (自分の／客の) ひげを剃った.」

basuh 「洗う」の ber-形を用いて, (27)のようなペアを作ることはできない.

- (28) a. *Saya/Dia telah ber-basuh badan/ tangan.
1SG/3SG PERF MID-wash body hand
b. Saya/Dia telah mem-basuh badan/ tangan.
1SG/3SG PERF ACT-wash body hand
「私／彼は (自分の) 体／手を洗った.」【8a-c】

ただし, ber-basuh は, 受動文と同じ意味関係, すなわち主語が対象 (theme) であるような以下の文でならば用いられる.

- (29) Pinggan mangkuk itu belum ber-basuh.
crockery that not.yet MID-wash
「その食器はまだ洗っていない.」

ちなみに, 英語や日本語で中間構文で表される, 「売れる」や「切れる」の意味を表すのには, ber-動詞を用いず, 形容詞の後に能動態または受動態の動詞が続く構文を用いる.

- (30) Buku itu laris (di-jual/ *ber-jual).
 book that in.demand PASS-sell MID-sell
 「その本はよく売れる。」【25】

- (31) Pisau itu senang mem-[p]otong/ *ber-potong.
 knife that easy ACT-cut MID-cut
 「そのナイフはよく切れる。」

5.2. 再帰表現

マレーシア語の再帰表現には、*diri*「自身」を用いた様々な表現が存在する。各表現は出現可能な統語的環境が異なる。ここではそのうち、*diri*+代名詞形と *diri sendiri* のみに言及する。詳細は Nomoto (2011)を参照されたい¹¹。

diri+代名詞形は、通常の代名詞と再帰代名詞の両方の性質を有し、*diri sendiri* は典型的な再帰代名詞の振舞いをする。具体的には、(32)のように同一節中に先行詞が存在する場合、どちらの形式も生起可能であるのに対し、(33)のように同一節中に先行詞が存在しない場合は、*diri*+代名詞形のみが生起可能である¹²。

¹¹ Cole and Hermon (2005)は、マレーシア語と最も近い方言である、シンガポール・マレー語の再帰表現の分布を記述している。

¹² 次のような例は、注意が必要である。

- (i) Dia ingat [{*diri-nya*/ *diri sendiri*} boleh menang].
 3SG think self-3SGself own can win
 「彼は自分が勝つと思った。」【19】

この文では *diri sendiri* も容認可能であるので、*diri*+代名詞形との間に何も差がないように見える。しかし、そのようになるのは *diri sendiri* がこの文では主語ではなく、「自分ひとりだけでも」という意味の付加詞として機能しているためである。とすると、(i)の文には音形を持った主語がないことになる。(ii)に示したように、実際に、補文中の主語 *dia*「彼」は(33)では必須であるのに対し、(i)ではなくてもよいという違いがある。

- (ii) a. Dia ingat [*(*dia*) lebih pandai daripada guru]. cf. (33)
 3SG think 3SG more clever than teacher
 「彼は自分が先生より賢いと思った。」

(32) Saya mem-beli buku itu (untuk {diri saya/ diri sendiri}).

1SG ACT-buy book that for self 1SG self own

「私は（自分のために）その本を買った。」【9】

(33) Dia ingat [{diri-nya/ *diri sendiri} lebih pandai daripada guru].

3SG think self-3SG self own more clever than teacher

「彼は自分が先生より賢いと思った。」

5.3. 相互表現

複数の行為者がその行為を相互に向けることを表す表現には、動詞に接辞 *ber-...-an* を付加することによって表される¹³。また、この接辞の有無に関わらず、「互いに」を意味する *saling* や *sesama sendiri* を付け加えることによっても同じ意味を表すことができる。

(34) Mereka (saling) ber-tumbuk(-an) (sesama sendiri).

3PL each.other MID-punch-PL/DISTR among own

「彼らは（互いに）殴り合っていた。」【10】

6. まとめ

ここで、第2-4節で見てきた構文を表の形にまとめてみたい。次のような参与者から成る2つの事象を仮定する。

(35) a. 事象1（使役事象）

使役者（causer）

b. 事象2

動作主（agent）、対象（theme）、受益者（beneficiary）、到着点（goal）

b. Dia ingat [(dia) boleh menang].

cf. (i)

3SG think 3SG can win

「彼は自分が勝つと思った。」【19】

¹³ *ber-...-an* は相互行為を表す1つの周接辞とすることもできるが、ここでは、中動態の接頭辞 *ber-* と複数性または分配を表す接尾辞 *-an* (cf. *durian* 「ドリアン」 = *duri* 「棘」 + *-an*) の組み合わせと分析することにする。

表 1 マレーシア語の主要ヴォイスにおける参与者と動詞の実現のされ方

		事象 1		事象 2				
		使役者	使役動詞	動作主	動詞	対象	受益者	到着点
能動	形態的能動			S	meN-V	O	(A)	(A)
	裸能動			S	Ø _{ACT} -V	O	(A)	(A)
受動	形態的受動			(A)	di-V	S (?)	(A)	(A)
	裸受動			S2	Ø _{PASS} -V	S (?)	(A)	(A)
使役	形態的使役	S			V-kan	O	(A)	(A)
	迂言的使役	S (主文)	V	S (補文)	V	O	(A)	(A)
適用	受益			S	V-kan	O2	O1	(A)
	到着点			S	V-i	O2	(A)	O1

(S: 主語, O: 目的語, O1: 第一目的語, O2: 第二目的語, (A): 付加詞)

受動文、使役文、適用文における、これらの参与者の文法関係と動詞の形態をまとめると表 1 のようになる。当該の参与者や動詞が理論上関与しない箇所には網掛けがしてある。形態的使役の動作主に網掛けがあるのは、この構文は非対格動詞のみに可能であるためである。受動文の対象が「S (?)」となっているのは、対象名詞句が動詞の後の位置に生起するような例が存在し、その統語分析が不明であるためである。裸受動の動作主を「S2」としたのは、ここまで *vP* の指定部の位置を「主語」と呼ばないことにしていた取り決め（注 5 参照）を撤回し、*TP* の指定部の位置を無標の「主語」、*vP* の指定部の位置を「主語 2」と想定した方が、表がすっきりするからである（cf. Guilfoyle et al. 1992）。動詞の接辞については、当該のヴォイスに関わるもののみを示してある。他の動詞接辞がさらに付くことは、もちろんあり得る。例えば、形態的使役文の動詞に形態的能動の *meN-*が付加し、*meN-V-kan* という形式になるなどである。

最後に、調査項目にはあるが、特筆すべき点のない文を以下に列挙しておく。

- (36) Orang-orang itu telah (sama-sama) ber-tolak ke bandar.
 person.PL that PERF together BER-leave to city
 「その人たちは《みな一緒に》町へ出発した。」【11】

- (37) a. Semalam saya terlebih minum kopi dan tidak dapat tidur.
 yesterday 1SG excessive drink coffee and not can sleep
 「昨日、私はコーヒーを飲みすぎて眠れなかった。」【14a】

- b. Semalam saya ada banyak kerja sehingga tidak dapat tidur.
 yesterday 1SG have much work so.that not can sleep
 「昨日、私は仕事がたくさんあって眠れなかった。」【14b】

(38a)は、日本語訳と同じく、いわゆる二重主語構文になっている。

- (38) a. Saya sakit kepala.
 1SG hurt head
 「私は頭が痛い。」【15】
 b. Kepala saya sakit.
 head 1SG hurt
 「私は頭が痛む。」

(39)は、直訳すると「あの女性は長い髪持ちだ」となる。形容詞 panjang 「長い」は、形態的に ber-動詞の一部となっている名詞 rambut 「髪」を修飾する。

- (39) Perempuan itu be-rambut¹⁴ panjang.
 woman that BER-hair long
 「あの女性は髪が長い。」【16】

- (40) a. Dia men-[t]epuk bahu Ali.
 3SG ACT-pat shoulder Ali
 「彼はアリの肩を叩いた。」【17a】
 b. Dia men-[t]angkap tangan Ali.
 3SG ACT-catch hand Ali
 「彼はアリの彼の手をつかんだ。」【17b】

- (41) a. Saya minum (sedikit) air (dalam cawan).
 1SG drink a.little water in cup
 「私は（コップの）水（の一部）を飲んだ。」【20a】
 b. Saya minum (semua) air (dalam cawan).
 1SG drink all water in cup
 「私は（コップの）水（全部）を飲んだ。」【20b】

¹⁴ 接頭辞 ber-は、語幹が r で始まる場合、be-という異形態で現れる。

- (42) Orang itu tidak makan daging.
 person that not eat meat
 「あの人は肉を食べない。」【21】

(43b)の ke-sejuk-an は、形容詞 sejuk 「寒い」に被害 (adversity) を表す周接辞 ke-...-an が付加した形である。動詞 be-rasa 「感じる」がある場合には、ke-...-an を抽象名詞を形成する周接辞とし、ke-sejuk-an を「寒気」という名詞と考えることもできる。

- (43) a. Hari ini sejuk.
 today cold
 「今日は寒い。」【22a】
 b. Saya (be-rasa) sejuk/ ke-sejuk-an.
 1SG BER-feel cold/ ADVS-cold-ADVS
 「私は (何だか) 寒い (私には寒く感じる).」【22b】

- (44) Saya terkejut dengan jumlah orang yang ramai.
 1SG surprised with total person REL many
 「私は人がとても多いのに驚いた。」【23】

- (45) Hujan sudah mula turun.
 rain PERF start fall
 「雨が降ってきた。」【24】

参考文献

- Arka, I Wayan, and Christopher D. Manning. 1998. Voice and grammatical relations in Indonesian: A new perspective. In Mirriam Butt and Tracy Holloway King (eds.) *Proceedings of the LFG98 Conference*. Stanford, CA: CSLI Publications,.
- Cole, Peter, and Gabriella Hermon. 2005. The typology of Malay reflexives. *Lingua* 115: 627–644.
- Cole, Peter, and Minjeong Son. 2004. The argument structure of verbs with the suffix *-kan* in Indonesian. *Oceanic Linguistics* 43: 339–364.
- Dowty, David. 1979. *Word Meaning and Montague Grammar: The Semantics of Verbs and Times in Generative Semantics and in Montague's PTQ*. Dordrecht: Reidel.
- Guilfoyle, Eithene, Henrietta Hung, and Lisa Travis. 1992. Spec of IP and Spec of VP: Two subjects in Austronesian languages. *Natural Language and Linguistic Theory* 10: 375–414.

- Kaswanti Purwo, Bambang. 1995. The two prototypes of ditransitive verbs: The Indonesian evidence. In Werner Abraham, Talmy Givón, and Sandra A. Thompson (eds.) *Discourse, Grammar and Typology*, 77–101. Amsterdam: John Benjamins.
- Kroeger, Paul. 2007. Morphosyntactic vs. morphosemantic functions of Indonesian *-kan*. In Annie Zaenen et al. (eds.) *Architectures, Rules, and Preferences: Variations on Themes of Joan Bresnan*, 229–251. Stanford, CA: CSLI Publications.
- Landman, Fred. 1992. The progressive. *Natural Language Semantics* 1: 1–32.
- Landman, Fred. 2008. 1066: On the difference between tense-perspective-aspect system in English and Dutch. In Susan Rothstein (ed.) *Theoretical and Crosslinguistic Approaches to the Semantics of Aspect*, 107–166. Amsterdam: John Benjamins.
- Nomoto, Hiroki. 2006. Voice in Colloquial Malay relatives. 敦賀陽一郎他（編）『言語情報学研究報告 12』, 97–116. 東京外国語大学.
- Nomoto, Hiroki. 2011. Teori tambatan dalam bahasa Melayu. 『東京外大東南アジア学』16: 1–16. 東京外国語大学.
- Nomoto, Hiroki, and Isamu Shoho. 2007. Voice in relative clauses in Malay: A comparison of written and spoken language. In Yuji Kawaguchi et al. (eds.) *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*, 353–370. Amsterdam: John Benjamins.
- Sneddon, James. 1996. *Indonesian: A Comprehensive Grammar*. London: Routledge.
- Soh, Hooi Ling, and Hiroki Nomoto. 2009. Progressive aspect, the verbal prefix *meN-*, and stative sentences in Malay. *Oceanic Linguistics* 48: 148–171.
- Soh, Hooi Ling, and Hiroki Nomoto. 2011. The Malay verbal prefix *meN-* and the unergative/unaccusative distinction. *Journal of East Asian Linguistics* 20: 77–106.
- Soh, Hooi Ling, and Hiroki Nomoto. 査読中. Degree achievements, telicity and the verbal prefix *meN-* in Malay.
- Son, Minjeong, and Peter Cole. 2008. An event-based account of *-kan* constructions in Standard Indonesian. *Language* 84: 120–160.
- Vamarasi, Marit Kana. 1999. *Grammatical Relations in Bahasa Indonesia*. Canberra: Pacific Linguistics.